

## 「JIMGA News」の創刊にあたって



一般社団法人 日本産業・医療ガス協会

会長 豊田昌輝

皆様には平素より当協会の活動に関し、ご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

JIMGA では業界として果たすべき社会的責任やコンプライアンスへの取り組みを適時的確に情報発信し、業界の社会的地位向上を図るため、このたび従来産業ガス部門で総務部に属していた広報ワーキンググループを「広報委員会」として独立させることといたしました。また、これまでは会員各位に事業活動について情報発信する機会が限られていましたが、広報委員会にて検討を行なった結果、「ホームページ」の内容の充実・強化、「産業ガスレポート」の内容見直しのほか、新たな情報発信のツールとして、「JIMGA News」のメール配信を開始することといたしました。

JIMGA は 1100 社を超える大変大きな組織であり、その活動は産業ガス部門の場合、32 の委員会・ワーキンググループと多岐にわたります。保安・教育活動や、専門的知見が必要な ISO 活動、自主基準の策定、規制緩和への対応などの様々な活動は、会員会社の皆様に支えられてこそ成し得ることが可能となります。

本紙発行の目的は、これらの日常活動の内容、ガス業界を取り巻く関連情報、国際的な業界動向をタイムリーに配信し、それらを通じて皆様方の業務推進のお役に立つことにあります。

ここに第 1 号をお届けいたしますが、今回は「RFタグの普及推進状況」、「環境自主行動計画フォローアップ調査結果」「IOMA (International Oxygen Manufacturers Association) 開催及び国際統合化対応」について事務局から報告させていただきます。RFタグは放置容器・不明容器の撲滅を目指し高圧ガス容器管理の切り札として重点的に取り組んでおり、環境対応や安全基準の国際統合化も JIMGA の重要課題のひとつです。

今後も 2～3ヶ月毎の発行により、JIMGA を取り巻くあらゆる話題を盛り込んで、聞き慣れない用語が飛び交う専門分野でもわかりやすくお伝えするよう努めてまいります。また、皆様のお力を頂戴し、内容を充実させ、質の高い情報提供を行いたいと思いますので、ご意見ご要望等ございましたら何なりとお申し付けください。

「JIMGA News」の創刊にあたり、広報活動の強化と本紙発行の趣旨を申し上げましたが、引き続き皆様方の JIMGA へのご支援ご理解を賜りたく、よろしく願いいたします。

平成 22 年 12 月吉日

## RFタグの普及推進状況

容器 RF タグ運営委員会からのレポートです。JIMGA として初動から3年半が経過し、これまでも定時総会のシンポジウム、産業ガスレポート及び業界紙等々でご紹介してきましたが、改めて活動成果の概要をお伝えいたします。

高圧ガス容器は高圧ガス保安法に基づく管理が義務付けられる他、資産・生産・流通の各管理のために、バーコードによる管理システムが導入されてきましたが、規格の不統一によりシステム間の互換性が乏しく、流通段階での利用に不都合がありました。JIMGA ではこれらを解消し、更には保安面の強化、容器移動履歴管理の徹底を目的に、IC タグを使用した容器管理の検討を重ねてきています。

**規格の制定**・・・JIMGA では昨年度までに規格をまとめ、タグに書き込む情報を合計 27 項目に絞り込みました。また、業界での仕様を共通化し、情報の読み・書き方法の統一、セキュリティーの確保を考慮して、JIMGA でミドルウェア（ハンディターミナルに搭載するソフトウェア）を開発しました。

**実証試験と成果**・・・金属製容器への装着を前提として、直射日光・風雨に曝される使用環境に耐え、尚且つデータが正確に保持され、正常に読み書きができるタグを開発し、実用化に向けて段階的に 4 つのステップで実証試験を行ってきました。現在、委員会社2社が広島・佐世保で実運用に入り、さらに今年度中には委員会社4社が他の地域（関東、関西地区）で実運用を開始する予定です。これまでの実証試験でいくつかの課題が見つかりましたが、その都度解決を図り、現在では合計約 15,000 本の容器に RF タグが装着され、本番の流通環境で運用されています。

### RFタグ導入による効果

- ①保安面の強化・・・規格が統一されているので、ハンディターミナルさえあれば所有者の異なる容器でも即時に識別することができ、所有者・ガス名・安全情報等を読み取って事故防止及び不明容器撲滅に役立てられます。また、放置容器が発見された場合には、所有者の確認が瞬時に可能となり、保安対策に大きく貢献することになります。
- ②移動履歴管理の徹底・・・タグは流過程において、入出荷日・納入日・回収日等の書き込みができます。これにより需要家との引渡し確認が容易になり、面前での取引が可能になります。
- ③資産の効率運用・・・タグの装着により遠隔読み取りが可能となりますので、容器置場において容器情報の読み取りが容易になり、容器の効率的な運用が図れることで、経済的に大いに合理化に貢献します。

### おわりに

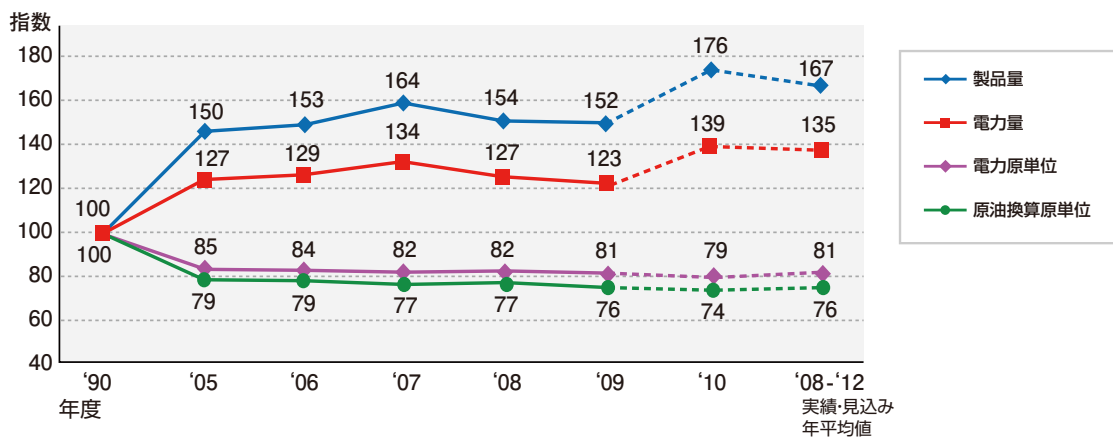
国内に流通している高圧ガス容器は 1,500 万本あるとされ、容器所有者は 4,000 社に達するものと見られます。当委員会の委員会社のご尽力でモデルケースも出来つつあり、導入によるメリットが可視化されつつあります。今後、JIMGA 会員はもとより、多くの容器所有者にこのタグによる容器管理を広め、消費者の保安確保に努めて参ります。（容器RFタグ運営委員会事務局・松阪 一紀）

## 環境自主行動計画フォローアップ調査結果

日本経団連では、「環境問題への取組みは企業の存続と活動に必須の要件である」との理念のもと、1997年に環境自主行動計画（温暖化対策編）を策定し、多くの業種・企業が自らの目標を設定し達成に向けた努力を続けています。JIMGAは、日本化学工業協会を通して日本経団連の環境自主行動計画に参加し、毎年フォローアップ調査を行っています。環境・安全部会環境保全WG省エネフォローアップ小委員会では、このほど2009年度の調査結果をとりまとめましたので、その概要をお知らせします。

参加会社数は年々増加し、本年の調査には従来のセパレートガスに加え、今回から初めて液化炭酸ガスが加わり合計63社に参加いただきました。2009年度実績、2010年度見通しとともに、2008年度から2012年度が京都議定書第1約束期間に該当することから、2012年度までの見通しも記入いただき集計しました。

セパレートガスの製品量、電力量、原単位指数の推移（1990年度=100）



2009年度は引続く減産下にもかかわらず、設備改善や運転方法の改善により、エネルギー原単位指数（原油換算原単位）で前年から1ポイント向上し、日本化学工業協会の目標値である80（基準年の1990年度を100として）を継続してクリアしました。また2010年度以降も達成できるとの見通しとなっています。

一方液化炭酸ガスについては、ドライアイスを液化炭酸ガスに換算した「液化炭酸換算出荷量」により原単位を求めました。2009年度は（2005年度を基準年として）98で、2005年度に対し2ポイント向上しました。

地球温暖化対策との関連で省エネ法や温暖化対策法が改正され各種数値の整合性が求められる中で、JIMGAとしては対象事業所、対象製品、製品量・電力量の定義を明確にするとともに、対象となる事業所をもつ会員会社には広く参加をお願いしてまいりました。

環境保全WGでは、環境自主行動計画フォローアップ調査の概要や産業ガス業界の省エネルギー・CO<sub>2</sub>排出削減技術を紹介した「産業ガス業界における地球温暖化対策への取り組み（地球温暖化対策技術・実施例）」を取りまとめ、JIMGAホームページの会員専用ページ（<http://www.jimga.or.jp>）に掲載しております。

（環境・安全部会事務局・森 和博）

## IOMA開催及び国際統合化対応

### IOMA(International Oxygen Manufacturers Association)国際会議

10月17日から21日まで、毎年恒例の第67回IOMA国際会議が、米国サウスカロライナ州のチャールストン近郊にて開催されました。チャールストンは歴史のある街で、特に南北戦争が始まった場所としても有名です。IOMAへの参加者は、37カ国、75社から222名を数えました。日本からは23名が参加致しました。

18日にはIOMA主催のゴルフ会の後、夜は歓迎夕食会がホテル近傍のミンゴー・ポイントで開催されました。ディキシーランド・ジャズを楽しみながらの会食となりました。

19日からはIOMAの年次総会で、本年度のメインテーマは「成長の持続性とその産業ガス業界への影響」ということで、著名なコンサルタントであるジム・コリンズ氏、また大学教授であるマーク・コーヘン博士が基調演説を行い、業界からはリンデ社、エア・プロダクツ社、ブラックスエア社、エア・リキード社の幹部が講演を行いました。

年次総会と並行し、IOMAのGC(Global Committee)と理事会も行なわれました。

全体的な基調としては、産業ガス業界は順調に推移していること、温暖化ガス削減や環境に貢献していること、医療やヘルスケアで社会に貢献していることが報告されていました。

このIOMA国際会議は毎年行われており、次回は2011年10月29日から11月2日まで、京都のウェスティン都ホテルで開催されます。

### 国際統合化対応

国際部会のIHC(International Harmonization Council)対応ワーキンググループにおいては、基準の国際統合化を進めております。この活動は、従来行なわれているもので、世界の4つの産業ガスの協会(AIGA(アジア)、CGA(北米)、EIGA(欧州)及びJIMGA)で進められております。この4協会が年2回一堂に会し、それぞれの協会から国際統合化ドキュメントの候補を上程し、討議を行い国際統合化指針を決めていきます。

各協会は、それぞれの国、地域において優れた産業ガスの安全な取扱い等のドキュメントを所有しており、これらの安全な取扱いを整合し、共通化していこう、という活動です。

今までに統合化されたドキュメントは約30件に上り、現在取組み中の案件、これから取組む案件等は、実に30件近く有ります。これらドキュメントの取組みは、専門家の知識が必要であり、それらに対応するためAHTF(特別小委員会)を編成し、皆様の中からそのドキュメント内容に知識のある方々に参加して頂き、JIMGA版を完成させます。

JIMGAとして、先ず原文が英語で書かれているためそれを翻訳し、また皆様にも分かり易い日本語に直していくこと、また法規制も海外と随分違いますので、内容に齟齬そごの無いように直していく等の作業があり、非常に時間を要します。これら作業にAHTFの委員としてご参加頂いてきたJIMGA会員会社の皆様には、本当に感謝しております。

今までJIMGAがリーダーとして完成してきたドキュメントは3件有り、これからもIHC国際活動については、積極的に参画して行くべく努力しております。(国際部会事務局・増田 弘)